

2024年1月31日

# 2024年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

東証プライム・名証プレミア 証券コード：2053

ホームページ <https://www.chubushiryo.co.jp/>

お問い合わせ先 TEL: 052-204-3050 総務人事部 総務課

## 目次

### 24.3 3Q 決算レビュー

#### ◆ 連結業績

- ◇ 連結経営成績 5
- ◇ 連結財政状態 6

#### ◆ 飼料セグメントの状況

- ◇ 外部環境① 8
- ◇ 外部環境② 9
- ◇ 営業利益の増減要因 10
- ◇ 飼料セグメント実績 ①畜産飼料 11
- ◇ 飼料セグメント実績 ①畜産飼料（続き） 12
- ◇ 飼料セグメント実績 ②水産飼料 13

#### ◆ その他セグメントの状況

- ◇ その他セグメント 実績 15

### 通期見通し

- ◇ 通期修正計画 17

### 参考資料

- ◇ 株主還元 19
- ◇ 参考資料 20

## 24.3 3Q 決算レビュー

連結業績

---

(単位：百万円)

	通期計画	23.3期 3Q	24.3期 3Q	前年同期比	計画進捗率
売上高	236,000	182,406	180,049	△ 2,356	76.3 %
飼料	221,000	172,222	169,121	△ 3,101	76.5 %
その他※1	15,000	10,183	10,928	744	72.9 %
営業利益	1,900	1,815	1,622	△ 192	85.4 %
経常利益	2,200	2,147	2,084	△ 62	94.8 %
セグメント利益※2	2,200	1,107	2,106	998	95.7 %
飼料	1,900	639	2,050	1,411	107.9 %
その他※1	950	703	425	△ 277	44.8 %
調整額※3	△ 650	△ 235	△ 370	△ 134	56.9 %
四半期純利益	1,500	823	1,588	764	105.9 %
設備投資額	5,100	2,771	3,190	419	62.6 %
減価償却費	2,920	2,224	2,165	△ 58	74.2 %

- ※1.その他セグメント：鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等  
 ※2.セグメント利益：税金等調整前四半期純利益  
 ※3.調整額：各報告セグメントに配分していない全社費用、金融収支を含む

5

連結財政状態

24.3期3Q 要約連結貸借対照表

(単位：億円)

流動資産	720 ( +54 )	負債	425 ( +63 )
現預金	16 ( △2 )	買掛金	231 ( +54 )
売上債権	519 ( +73 )	有利子負債	112 ( △10 )
たな卸資産	161 ( △10 )		
		純資産	630 ( +16 )
		株主資本	604 ( +5 )
		その他包括利益	23 ( +10 )
		非支配株主持分	2 ( +0 )
流動比率	211.0 % ( △19.4pt )		
固定資産	335 ( +25 )		
有形	256 ( +10 )		
無形	4 ( △0 )		
投資その他	74 ( +15 )		
		自己資本比率	59.5% ( △3.2pt )
総資産	1,055 ( +79 )	負債・純資産	1,055 ( +79 )

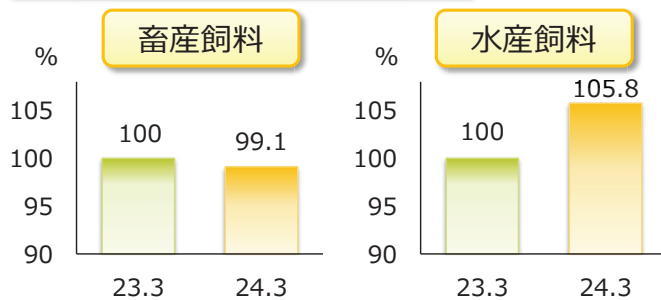
※ ( ) 内の数値は、23.3期末との比較

6

# 飼料セグメントの状況

## 外部環境①

### 飼料の市場流通量

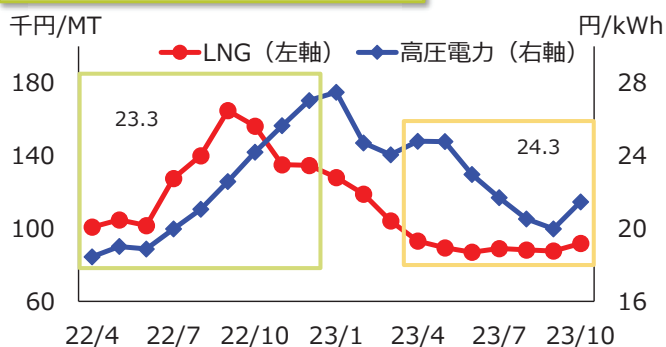


※1. 畜産飼料は4-11月の市場流通量（飼料月報）  
 ※2. 水産飼料は4-12月における日本養魚協会に属するメーカーの合計

- ◇ 畜産飼料は鳥インフルエンザの影響で採卵鶏用飼料が減少し、全体では微減
- ◇ 水産飼料はハマチ用飼料がけん引し前年同期を上回る

畜産飼料は微減  
 水産飼料は堅調に推移

### エネルギー単価の推移

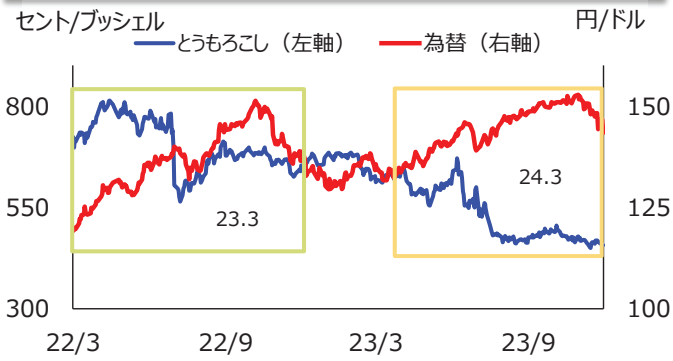


※LNG：財務省貿易統計。高圧電力：電力・ガス取引監視等委員会

- ◇ LNG
  - 前期と比べて安定的かつ低位で推移
- ◇ 高圧電力
  - 前期と今期の平均単価は同水準
  - 補助金により実質価格は下落

製造コスト等は減少

とうもろこしシカゴ相場と為替相場の推移



◇ とうもろこし

○ 22年5月をピークに相場安が進んでいる

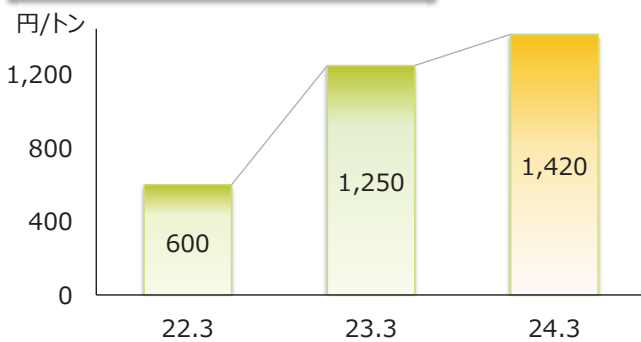
◇ 為替

○ 22年3月より急激かつ大幅な円安が進行

○ 22年10月から23年2月に向けて円高に進んだが、その後、再び円安が進んでいる

仕入コストは改善

基金負担金単価の推移



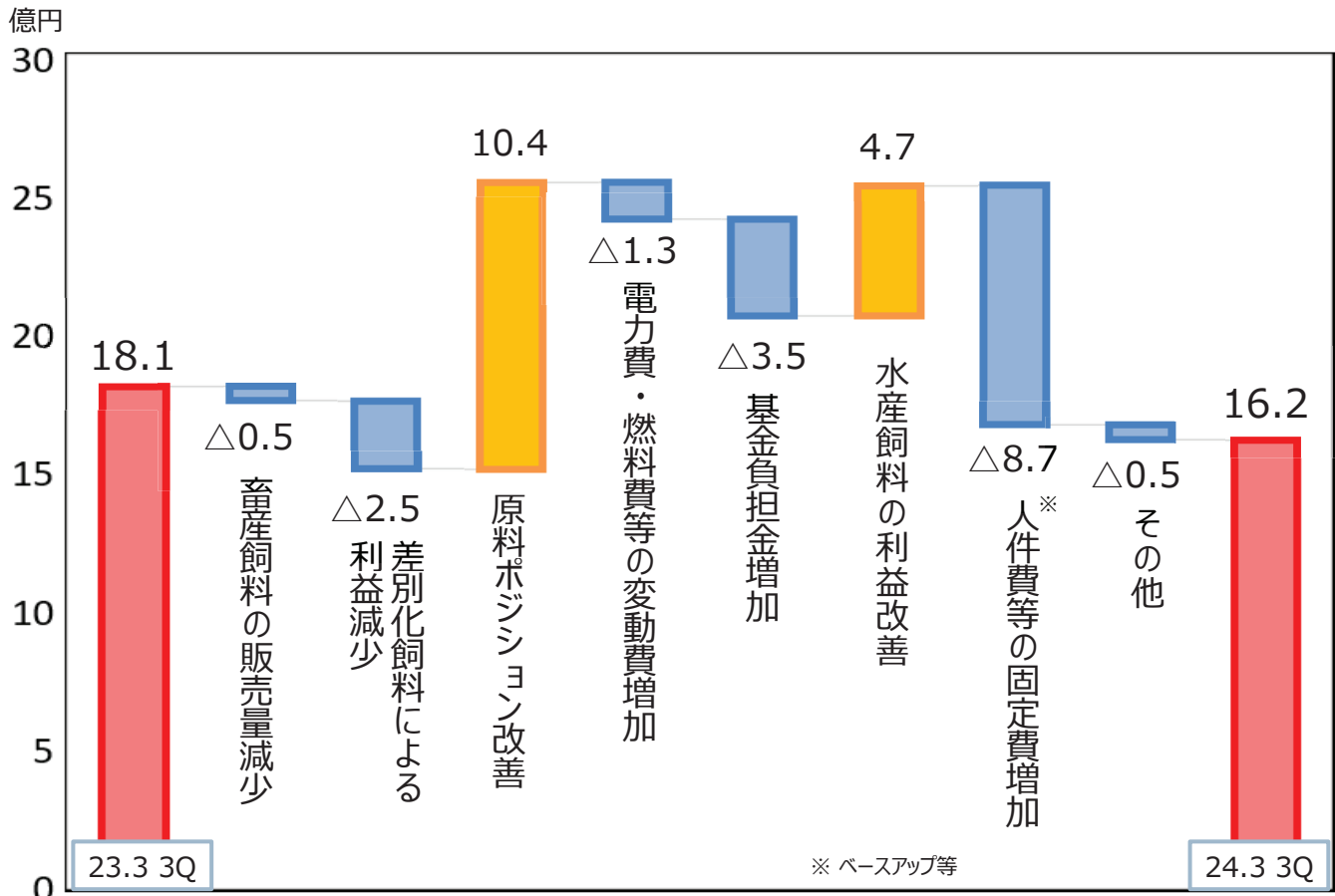
◇ 高額な補てん金の交付が続いたことから積立金単価は右肩上がり




◇ 24.3期は170円/トンの負担増加


販管費が増加

9

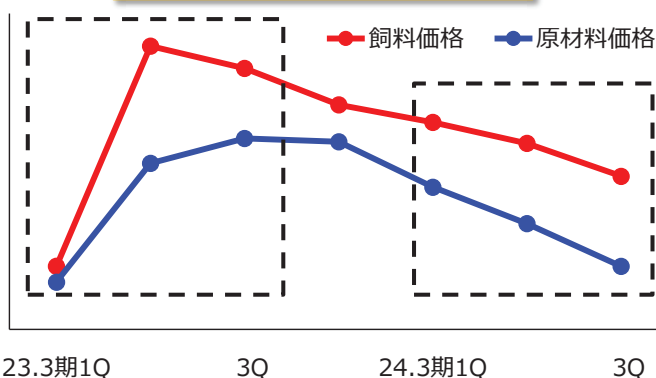
営業利益の増減要因



項目	前年同期比	要因	計画との比較
販売量	 △0.5億	◇ 前年同期比99.4% ◇ 養鶏用飼料において、競争激化が加速し、販売量が減少 ◇ 養豚用飼料、養牛用飼料は取組が評価され増加	△
差別化飼料比率	 △2.5億	◇ 前期からの飼料価格高騰により、価格志向が強まった影響を受け、差別化飼料の汎用化が進行 ◇ その中で環境に配慮した製品の比率は上昇	×
電力費・燃料費等の変動費	 △1.3億	◇ 電力費・燃料費は補助金延長もあり前期より減少も、運賃等が上昇し変動費は微増	○

項目	前年同期比	要因	計画との比較
原料ポジション	 +10.4億	◇ 為替は円安で推移するも、直近の穀物相場が下落し、原材料価格は下落 ◇ 原材料価格の下落を受け、値下げを実施 ◇ 原材料価格の下落幅が値下げ幅を上回り、原料ポジションは改善	△

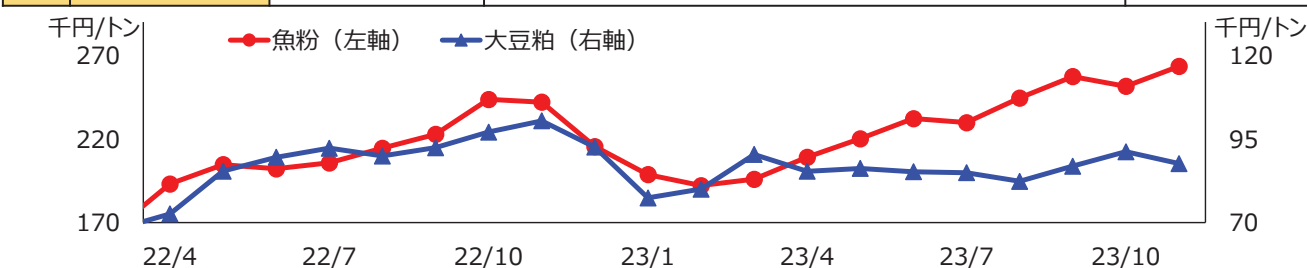
原料ポジションの状況



※原料ポジションとは






- ◇ 原材料価格は、穀物相場や為替、海上運賃等により変動
  - ◇ 飼料価格は、四半期毎に改定
  - ◇ 原材料価格と飼料価格の変動幅にギャップやタイムラグが発生
- ⇒ 原料ポジションが改善・悪化

項目	前年同期比	要因	計画との比較
水産飼料の利益改善	↑ +4.7億	◇ 販売量は大幅に増加し、利益率も改善した結果、利益は改善	○
利益率	↑	◇ 主原料である魚粉の価格は上昇、魚粉の代替原料となる大豆粕は横ばい ○ 値上げによる価格転嫁を実施 ○ 配合割合の工夫により、品質を維持しながらコストを抑制した新製品を投入	○
販売量	↑	◇ 前年同期比106.1% ◇ ハマチ用飼料での取組が評価され、大幅な拡販に成功	△



※ 財務省 貿易統計

## その他セグメントの状況

項目	前年同期比	要因	計画との比較
その他セグメント	 △2.7億	◇ 肥料と畜産用機器の販売が伸び悩み、セグメント利益は前年同期を下回る	×
鶏卵販売		◇ 外食・業務向けは復調するも、量販向けの販売が伸びず、販売数量と利益は前年同期をわずかに下回る	○
肥料		◇ スマート農業の進展と的確な施肥により肥料需要が減少したため、販売量と利益が前年同期を大きく下回る	×
畜産用機器		◇ 受注分の多くの機器設置が4Qに予定されているため、販売台数と利益が前年同期を大きく下回る	×
保険代理業		◇ 畜産保険の販売件数及び利益は前年同期を上回り、計画通り堅調に推移	○

## 通期見通し



(単位：百万円)

	23.3期 実績	24.3期 当初計画	24.3期 修正計画 (1/31発表)	計画差異
売上高	243,476	236,000	236,000	-
飼料	229,707	221,000	221,000	-
その他	13,768	15,000	15,000	-
営業利益	1,670	1,900	3,000	1,100
経常利益	2,069	2,200	3,400	1,200
セグメント利益	1,085	2,200	3,400	1,200
飼料	463	1,900	3,350	1,450
その他	960	950	700	△ 250
調整額	△ 338	△ 650	△ 650	-
当期純利益	827	1,500	2,600	1,100

**飼料セグメント**

原料ポジションの想定以上の改善に加え、  
 電力費・燃料費等の変動費の増加が想定を下回る

**その他セグメント**

肥料・畜産用機器の販売が伸び悩み、想定を下回る

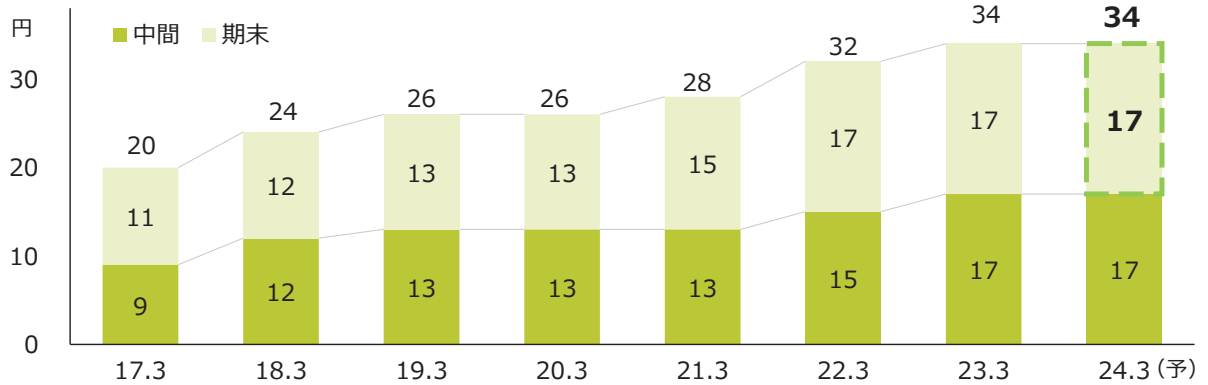
参考資料

還元方針

- ◇ 安定配当を維持向上させる
- ◇ 将来の事業展開や経営環境の変化に対応するために必要な内部留保、業績及び純資産配当率（DOE）等を勘案し、配当を決定する
- ◇ 株価水準や財務状況等を勘案して自己株式の取得を機動的に実施し、資本効率の改善と株主の皆様への還元を図る

1 株当たり配当金の推移

◇ 24.3期の中間配当金は17円/株  
 ⇒ 24.3期の配当金は34円/株を予定

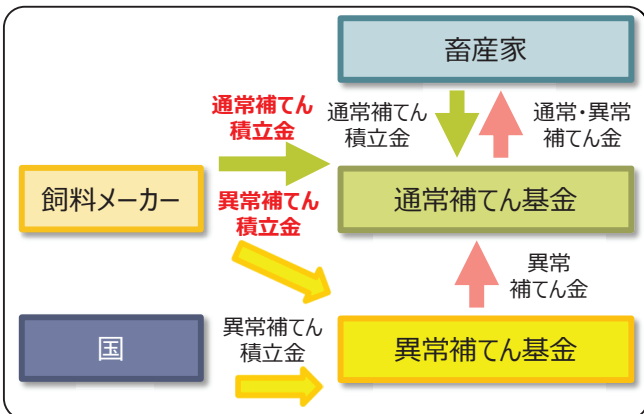


純資産配当率 (%)	1.3	1.5	1.5	1.4	1.5	1.6	1.6	1.6
配当金総額 (億円)	6.1	7.3	7.8	7.8	8.4	9.5	10.0	10.0
自己株式取得額 (億円)	-	-	-	4.6	-	2.8	2.3	(未定)

19

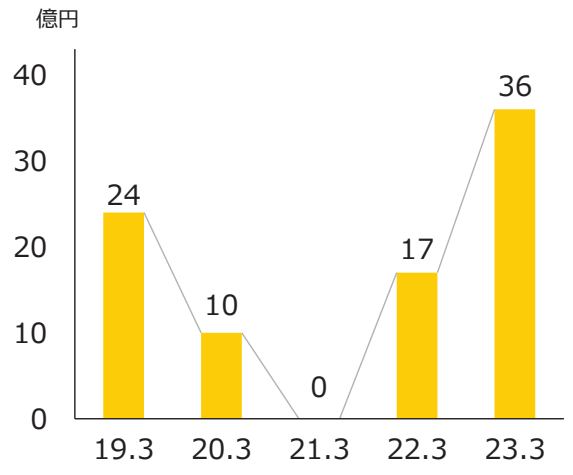
参考資料

基金負担金の仕組み



- 目的** ◇ 飼料価格上昇による畜産経営の影響を緩和
- 内容** ◇ 畜産家・飼料メーカー・国が積立  
 ◇ 一定のルールに基づき、畜産家へ補てん金を交付  
 ◇ 積立金は財源により増減

④ 基金負担金の推移



差別化飼料

- ◇ お客様との取組みの中で開発
- ◇ お客様の生産性向上や特性ある畜産物の生産に貢献する高付加価値製品



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。